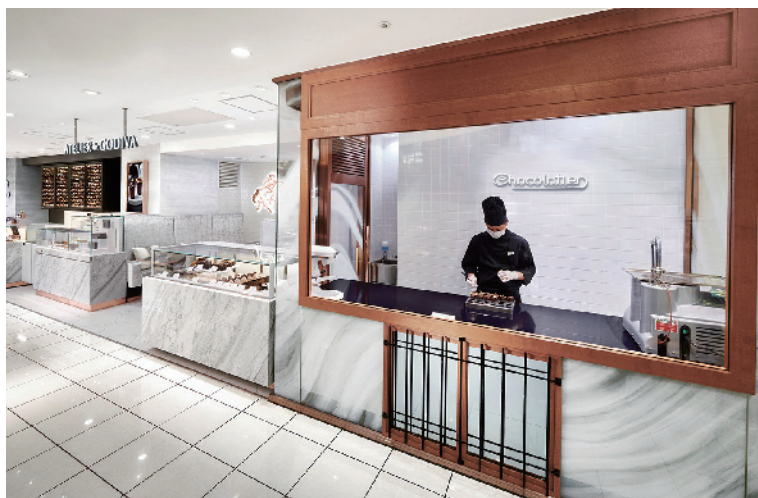


第46期 株主通信

2017年1月1日 ▶ 2017年12月31日



商空間の創造を通じて 豊かな社会の実現に貢献します

SPACE



代表取締役会長
加藤千寿夫

代表取締役社長
若林弘之

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第46期(2017年1月1日から2017年12月31日まで)を終了いたしましたので、その概要をご報告いたします。

当事業年度における当社を取り巻く事業環境は、政府及び日本銀行による各種政策の効果もあって、雇用・所得環境に改善がみられるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。また、設備投資についても企業収益の改善を背景に高い水準で推移しております。一方で当社の主要顧客である小売業界は個人消費の伸び悩みにより景気回復の実感

が少なく、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社は中期経営計画に基づき、安定した利益を確保するため、収益性及び生産性の向上を目的とした社内体制の整備・強化を行ってまいりました。

この結果、当事業年度の売上高は507億46百万円(前事業年度比3.1%増)、営業利益は36億72百万円(前事業年度比9.1%増)、経常利益は36億77百万円(前事業年度比9.4%増)、当期純利益は24億91百万円(前事業年度比14.8%増)となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

配当金について

当事業年度の1株当たり期末配当金は、普通配当25円に特別配当5円を加えまして30円とさせていただきます。

2018年度の業績予想

(2018年1月1日～2018年12月31日)

売上高 **47,000** 百万円

営業利益 **3,300** 百万円

経常利益 **3,200** 百万円

当期純利益 **2,200** 百万円

2018年度の配当予想

2018年度の配当金につきましては、内部留保の充実による経営基盤の強化を目指す一方、収益力の一層の向上と財務体質の強化を図り、安定配当を維持することを基本とし、株主の皆様へ利益還元を心掛けることを方針としております。この方針にしたがい、2018年度の年間配当金は1株当たり50円(中間25円、期末25円)を予定しております。

年間配当金 50円
(中間25円・期末25円)

株式の分割について

投資単位当たりの金額の引き下げにより、一層投資しやすい環境を整え、流動性の向上及び投資家層の拡大を図ることを目的として、当社は株式の分割を行いました。2017年12月31日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主様の所有する普通株式を、1株につき1.1株の割合をもって分割いたしました。

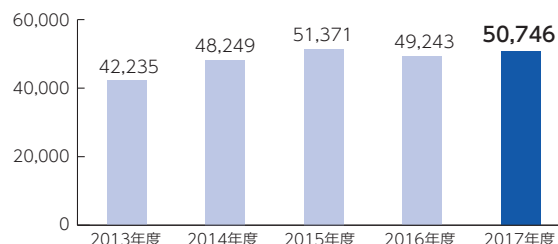
配当について

今回の株式分割は2018年1月1日を効力発生日としているため、2017年12月31日を基準日とする2017年12月期の期末配当金は、株式分割前の株式が対象となります。

業績の推移

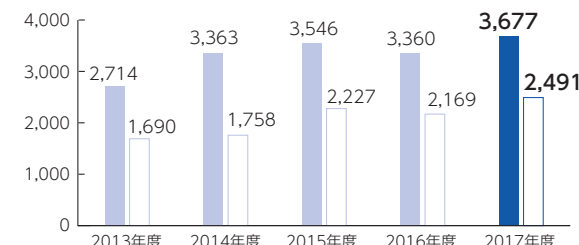
■売上高

(単位：百万円)



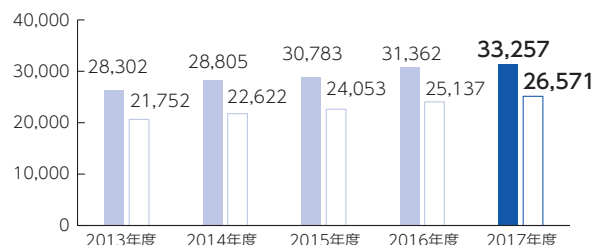
■経常利益 □当期純利益

(単位：百万円)



■総資産額 □純資産額

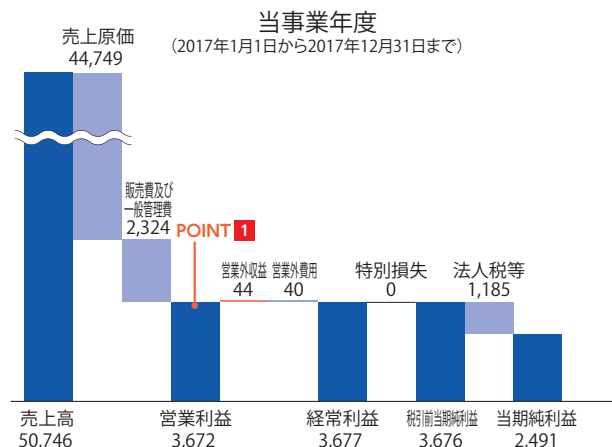
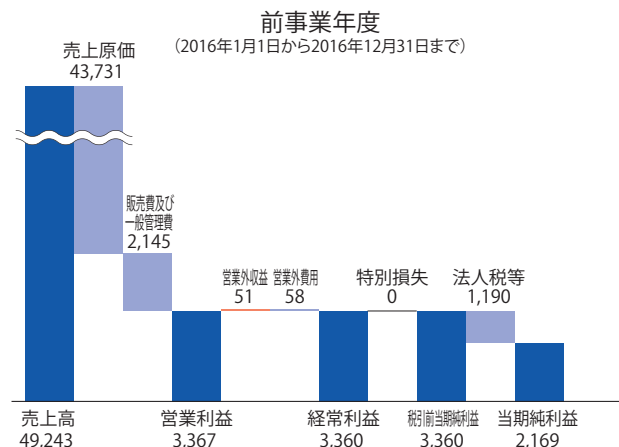
(単位：百万円)



株式分割前の発行済株式総数	24,182,109 株
今回の分割により増加する株式数	2,418,210 株
株式分割後の発行済株式総数	26,600,319 株
株式分割後の発行可能株式総数	44,736,120 株

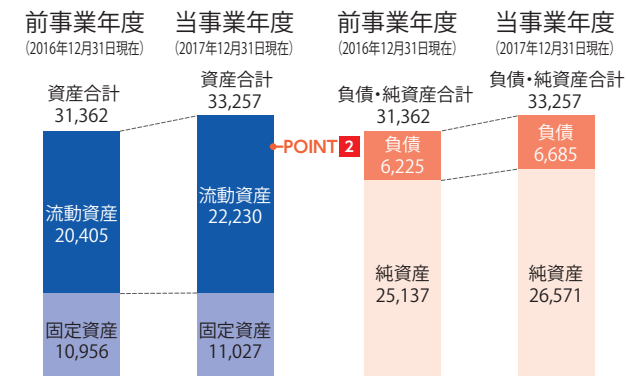
損益計算書より

(単位:百万円)



貸借対照表より

(単位:百万円)



POINT 1 営業利益

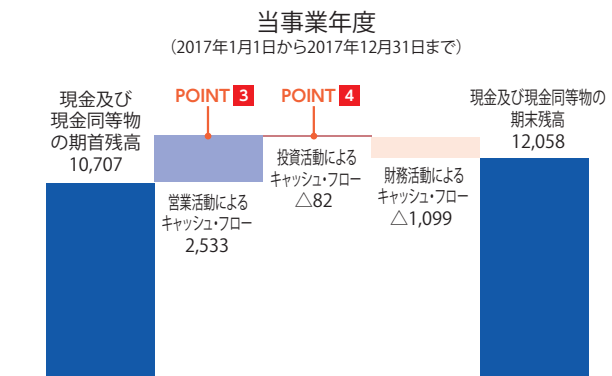
売上原価や販売費及び一般管理費の増加したものの、売上高の増加により前事業年度と比べ、3億5百万円増加の36億72百万円となりました。

POINT 2 流動資産

受取手形が2億59百万円減少したものの、現金及び預金が12億31百万円、完成工事未収入金が増加したことにより、222億30百万円となりました。

キャッシュ・フロー計算書より

(単位:百万円)



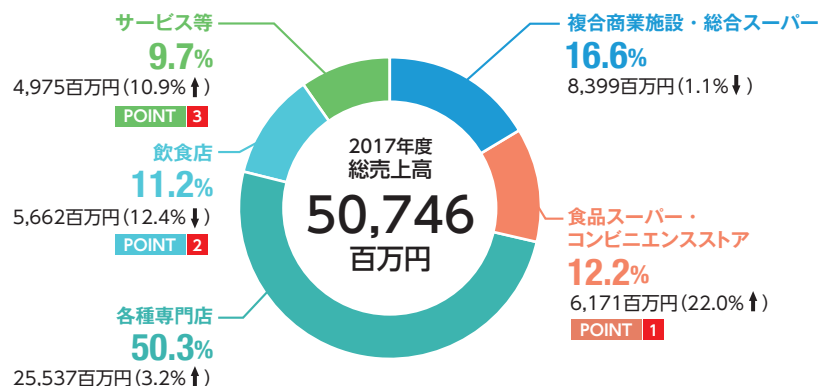
POINT 3 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払が11億19百万円あったものの、税引前当期純利益の計上が36億76百万円あったことにより、25億33百万円の収入(前事業年度は39億5百万円の収入)となりました。

POINT 4 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の払戻による収入が1億20百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が1億45百万円、無形固定資産の取得による支出が47百万円あったことにより、82百万円の支出(前事業年度は1億83百万円の収入)となりました。

市場分野別 売上高構成比



POINT 1

食品スーパー・コンビニエンスストア分野では、業界再編により新規出店や改装等の動きが活発化したことから、受注が増加いたしました。

POINT 2

飲食店分野では、食材価格の高騰や人手不足における人件費の高騰などから出店が抑制されたことにより、受注は減少いたしました。

POINT 3

サービス等分野では、モノ消費からコト消費への変化や訪日外国人増加の影響もあり、教育関連施設や娯楽・余暇施設関連の受注が増加いたしました。

サービス等

KYB 第45回東京モーターショー2017

2017/10/27~11/5 開催

クライアント：KYB株式会社様

会場：東京ビッグサイト（東京都江東区）



飲食店

HEART BREAD ANTIQUE 京都四条店

2017/7/7 OPEN

クライアント：株式会社オールハーツ・カンパニー様

所在地：京都府京都市



複合商業施設・総合スーパー

ノースポート・モール リニューアルプロジェクト

2017/9/15 OPEN

クライアント：東急不動産株式会社様

所在地：神奈川県横浜市



食品スーパー・コンビニエンスストア

ファミマ グローバルゲート店

2017/10/5 OPEN

クライアント：株式会社ファミリーマート様

所在地：愛知県名古屋市長古屋



各種専門店

Coleman 三井アウトレットパーク長島店

2017/9/25 OPEN

クライアント：コールマンジャパン株式会社様

所在地：三重県桑名市



2019年度を最終年度とする中期経営計画について、初年度となる2017年度の取り組みの1つをご報告します。

ブランディングプロジェクト

価値観・人材・スキルの戦略より「企業ブランドの構築」

ブランディングプロジェクト発足の経緯

長期ビジョン「商空間プロデュース企業」を実現するには、「スペース」という企業を社会により広く知っていただくことが不可欠です。改めて自分たちを見つめ直し、自分たちが社会にとって、お客様にとって、どんな存在であるべきなのかを明確にするためにプロジェクトを発足しました。



2018年1月24日付 日本経済新聞に掲載した当社広告

中期経営計画の戦略

1 ビジネスの戦略

- ・顧客基盤の構築
- ・付加価値の創造
- ・施工力の強化

2 組織・制度の戦略

- ・専門組織の確立
- ・労働環境の整備

3 価値観・人材・スキルの戦略

- ・人材開発
- ・企業ブランドの構築

ブランディングとは

「不易流行」という言葉がありますが、これはいつまでも変化しない本質的なもの(「不易」⇒「企業理念」)がある一方で、新しく変化を重ねているもの(「流行」⇒「企業戦略」)を取り入れていくということです。当社にとっての「不易流行」を見つめ直し、当社がどんな歴史を歩んできたのか、なぜ存在するのか、未来に繋がる礎となる部分を一年にわたり考えてきました。

言葉に込めた想い

「明日が、笑顔になる空間を。」——この言葉には、世の中を希望にあふれた空間にしたいという想いが込められています。モノが売れなくなり、従来の小売業が苦戦している今、既存の秩序が崩壊していくのではないかと世の中は不安に包まれています。しかし、それは新たな可能性が開かれているともいえます。不安のないところに希望はありません。「スペース」という社名の持つ可能性を信じ、「明日が、笑顔になる空間を。」これからもつづけてまいります。

2018年、当社は創立70周年を迎えました。

皆様のおかげをもちまして当社は創立70周年を迎えました。

100年企業を目指すとともに、皆様が「笑顔」になる空間をつくり続けていけるよう社員一同邁進してまいります。そのために社員一人ひとりが未来をつくり出す一歩にしたいという願いから、70周年プロジェクトとして様々なプログラムを行っていきます。その一部をご紹介します。



「スペース通信」号外

周年プロジェクトに関する内容をまとめたものを社内報の号外として発行しました。

初回は、この周年プロジェクトに取り組む理由を代表取締役である若林より社員に向けたメッセージとして発信しました。また、70年間の歴史をクイズ形式で振り返るコーナーも掲載し、当社の歩みを再確認しました。

SCビジネスフェア

2018年1月24日～26日、パシフィコ横浜にて「SCビジネスフェア2018」*が開催され、当社は今年もブースを出展しました。

今年は創立70周年ということで、当社の強みや実績、今後の目指すべき姿をブース全体で表現しました。

ブース真正面の街並みを描いた壁面は、ショッピングセンターだけでなく公共施設、商店街等、あらゆる商空間をつくっていきたいという、これからの当社がすべきことを描いています。

※「SCビジネスフェア」とはSC関係者が一堂に集まる唯一の展示会で、ディベロッパー、テナント、関連企業が多数出展します。情報交換や商談が行われ、SC関連の方にとって、他では見ることのできない展示会です。



スペースブース

ATELIER de GODIVA 西武池袋本店

ゴディバジャパン様の新業態店舗のブランディングをトータルプロデュースした事例をご紹介します。



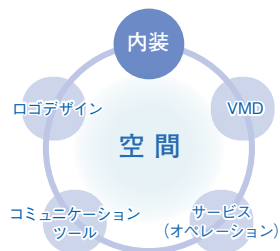
2017/8/30 OPEN

クライアント：ゴディバジャパン株式会社様

所在地：東京都豊島区

担当部署：東京第3本部 営業10部

トータルプロデュースの範囲



※内装＝当社が通常行う企画・設計・施工

プロジェクト概要

ベルギーの高級チョコレートブランド「GODIVA」のクラフツマンシップ（シェフ・ショコラティエの手仕事）とチョコレートアーティスト（芸術性）をダイレクトに楽しめる“世界初”のコンセプトストア「ATELIER de GODIVA」がオープンしました。ゴディバジャパン株式会社様としても初となるグローバルオフィシャルの日本発の新業態ということで、既存のお客様を大切にしながらも新たにミレニアル世代をターゲットと

したブランディングに関わる、ゴディバジャパン様と当社の双方にとって大きなチャレンジとなりました。

当社がディレクションをとる立場として外部ブレンとクリエイティブチームを組み、コンセプト立案からストアデザイン、VMD※提案のほか、パッケージやユニフォームからカトラリーといった運営に関わる各コミュニケーションツールまで、新業態のブランディングをトータルにプロデュースしました。

※VMD(visual merchandising)：視覚に訴えてお客様の購買意欲を喚起するマーケティング手法



キービジュアル・リーフレットほか



オリジナルパッケージ



当時ブリュッセルにあった店舗のショーウィンドウをモチーフにしたオープンアトリエ

GODIVAの原点と店舗コンセプト

GODIVAには、第二次世界大戦後、悲しみの中にあるブリュッセル市民のために自分たちができることは何かと考えた初代シェフ・ショコラティエが、デリバリー用のバンを愛らしいピンク色に塗装し、チョコレートを届けたというエピソードがあります。一粒のチョコレートで人々を幸せにするという原点をGODIVAは大切にしてきました。

当店舗は「ここでしか味わえない、特別なGODIVAに出会える空間」をコンセプトとしています。ひとたびお店に足を運べば、シェフがひと皿ずつ仕上げる限定スイーツが楽しみ、90年を超える伝統と革新が融合するGODIVAの魅力を再発見できる。さらにギフトとして購入も——そんなアトリエならではの幸せな体験や驚き、贅沢なひとときの提供を目指しました。それは、GODIVAの本質的な価値を、現在の時流である「コト体験」として、新たな世代に伝えたいという想いからはじまりました。

付加価値の提供

外部プレーンとATELIER de GODIVAの世界観を共有し、パッケージやリーフレット等のツールとオリジナルアートを一体化することで、空間に新たな価値を付加しました。「特別なサービスとアートに彩られた空間でチョコレートを味わう」という贅沢な非日常体験を提案しています。

オープン後の反響

オープン当日はテレビ取材も多く、話題性のある店舗として長い行列の風景とともに放送されました。元々アトリエのアイディアを温めていたゴディバジャパンのジェローム社長には「このような素敵なお店ができ、こんなにも人が集まるオープニングは初めてだ」と大変喜んでいただきました。また、店舗開発をはじめ、VMD、マーケティング、シェフ、営業部、サプライヤー各社など垣根を越えてディスカッションを重ね、同じゴールを目指して共に新しい業態をつくり上げられたことが、ビジネスパートナーとしての評価に繋がったと感じています。

ATELIER de GODIVAは1号店の西武池袋本店に続き、博多阪急店、大丸京都店がオープンしました。

付加価値のある空間づくりのご提案

近年、従来当社が行ってきた「内装」づくりだけではなく、そこに人が集う仕掛けや集った人々が楽しめたり、何かを共有し合ったり、体験できるといった付加価値のある「空間」づくりが求められてきています。当社は「空間」の可能性を追求し、お客様へのご提案へと繋げていきます。

スペースは地域コミュニティを応援しています

東京

『人生フルーツ』上映会を開催しました。

2017年12月6日、東京都日本橋人形町にある当社ANNEXビルにおいて、ある建築家夫婦の日常を撮影した話題のドキュメンタリー映画『人生フルーツ』の上映会を行いました。この映画では、めまぐるしく移り変わる社会の中で忘れかけている「人間らしく生きることの大切さ」や「人・街におけるコミュニティのあり方」が随所で問われています。コミュニティを中心としたイベントを多数開催する「BETTARA STAND 日本橋」様、2017年秋に日本橋にオープンした「おもすびスタンドANDON」様とコラボレーションしたこのイベントは満員御礼となり、大盛況のうちに終えることができました。

当日は映画鑑賞とともに、「ANDON」の絶品卵かけ御飯と日本橋べったらしで、お馴染みのべったらし漬けをお楽しみいただき、地域の皆様と交流するきっかけづくりの場となりました。



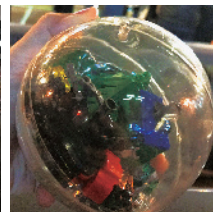
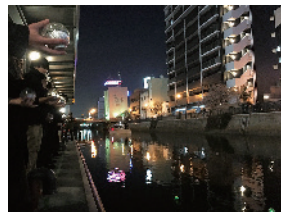
名古屋

「納屋橋ホタル」に参加しました。

2017年12月22日、名古屋市中心部を流れる堀川の水質改善を願い、名古屋芸術大学様が企画された「納屋橋ホタル」に参加しました。このあたりは淡水と海水の混じる汽水域のため、ホタルが生息することはありませんが、「ホタルが見られるほどのきれいで澄んだ川に」との想いを込めて初開催されました。

光ホタルの正体は、プラスチック球に入れられたレゴブロックでつくったホタルで、水に触れると発光ダイオード（LED）で光ります。参加した小学生たちが納屋橋栈橋からホタルを放流し、オレンジや緑に光る様子を目にとると、参加者から思わず歓声が上がりました。

当社は、この企画の主催者である名古屋芸術大学様の運営されるレゴブロック教室（テラスせ納屋橋内）を設計・施工した繋がりから、今回この取り組みへ協賛し、同じ地域にある企業として地域の活性化活動に参加しました。



地域の賑わいづくりや魅力を発信し、地域コミュニティを盛り上げていくことは、「空間」づくりに携わる当社がすべきことだと考えています。近年、世界中でテクノロジーが発達し、コミュニケーションの形が変わりつつあります。だからこそ、人と人が直接出会い、様々なことを感じるリアルな「場」＝「空間」は無限の可能性を秘めています。当社はその可能性を模索し、地域の皆様と共に考え、共有する活動を行っていきます。

大阪

「えのこ de マルシェ」に参加しました。

2017年10月28日、当社大阪事業本部近隣にある大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）で、地域交流を目的に開催されている「えのこ de マルシェ」に参加しました。その中で当社は「まちづくりワークショップ『えのこ3丁目建設中!』』というワークショップを企画開催しました。当日は生憎の雨でしたが、お子様をはじめ、多くの皆様にご参加いただき大盛況となりました。

今回のワークショップの目的は、子供たちに「未来の江之子島」として実際に小さな街をつくってもらうことで、子供たちや地域の方々が自分たちの住む街の未来像を描くきっかけづくりと、ものづくりの楽しさを知ってもらうことにあります。子供たちの自由な発想に刺激を受けながら、地域の皆様と一緒に手を動かし、未来の江之子島についての想いを共有する場となりました。



各種アワード 参加報告

■ 第36回ディスプレイ産業賞2017(一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会主催)

入賞：2件／入選：3件

優秀賞(経済産業省商務・サービスグループ審議官賞) 「崙 KURA HOLIC」

奨励賞(日本ディスプレイ業団体連合会賞) 「十六銀行 川原町出張所ATM」

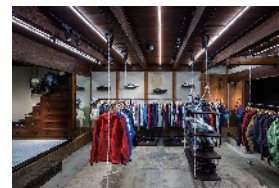
■ 第11回キッズデザイン賞2017(特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催)

受賞：1件 「アリオ橋本 環境リニューアル」

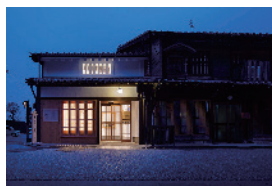
■ 平成29年度岐阜市景観賞／景観奨励賞(岐阜市主催)

景観賞(屋外広告物部門)／

景観奨励賞(風景・まちづくり部門) 「崙 KURA HOLIC」



崙 KURA HOLIC



十六銀行 川原町出張所ATM



アリオ橋本 環境リニューアル

会社概要

- 商 号 株式会社 スペース (SPACE CO., LTD.)
 - 本 社 東京都中央区日本橋人形町三丁目9番4号
 - 設 立 昭和47年10月5日
 - 資本金 33億9,553万7,101円
 - 従業員 913名
 - 役 員
- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| 代表取締役会長 | 加藤千寿夫 | 取締役(社外) | 前川 弘美※ |
| 代表取締役社長 | 若林 弘之 | 取締役(社外) | 和田 良子※ |
| 代表取締役専務 | 林 不二夫 | 取締役(社外) | 田口 聡志※ |
| 常務取締役 | 岡島 昇 | 執行役員 | 塚谷 光次 |
| 常務取締役 | 清水 康史 | 執行役員 | 鈴木 孝雄 |
| 常務取締役 | 佐々木靖浩 | 執行役員 | 森田 昭一 |
| 取締役 | 大數由紀夫 | 執行役員 | 片岡 純二 |
| 取締役 | 兼子 正則 | 執行役員 | 武内 浩之 |
| 取締役 | 菊池 利夫※ | 執行役員 | 庄村 香史 |

(注) 2018年3月29日現在の役員を記載しております。
※の者は、監査等委員である取締役であります。

当社ウェブサイトのご紹介

最新の実績紹介のほか、ニュースリリースやIR情報など、情報を掲載しています。
ぜひご覧ください。

<http://www.space-tokyo.co.jp/>



株主メモ

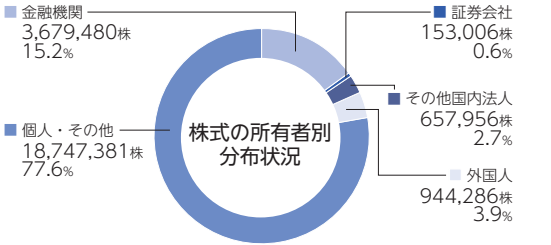
事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日 その他必要があるときは、取締役会の決議により、あらかじめ公告した一定の日
単元株式数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞

株式の状況

- 発行可能株式総数 40,669,200 株
- 発行済株式の総数 21,968,855 株 (自己株式数2,213,254株を除く)
- (注) 当社は、2017年11月27日開催の取締役会の決議に基づき、2018年1月1日付で普通株式1株につき1.1株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、発行可能株式総数は44,736,120株となり、発行済株式の総数が2,418,210株増加しております。
- 株主数 4,795 名
- 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
スペース従業員持株会	2,602,043	11.8
加藤千寿夫	1,506,900	6.9
スペース取引先持株会	1,296,740	5.9
若林 弘之	1,022,200	4.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	620,040	2.8
高津 伸生	579,180	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	575,600	2.6
若林 幸子	533,200	2.4
後藤 廣高	516,000	2.3
高津久仁枝	507,303	2.3

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。



株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先(電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。